

世界の人とふれあいタイム



「ミャンマーの話」

実施日：平成 26 年 11 月 30 日(日)
場 所：学生交流室・国際交流室

今回のゲストスピーカーはヤンゴン出身のキョーミンさんで、2 度目の登場です。前回 2006 年 3 月にはミャンマーの軍政下での実情について話しました。キョーミンさんは 2000 年に来日し、コンピューターネットワークの専門技術を修得し、現在アップルの認定技術者として日本企業に勤務しています。その傍ら、日本とミャンマーの文化交流の懸け橋としての役割を担いたいと、ミャンマーの日本企業で働く人たちの日本語支援、図書館事業や NGO と共にミャンマーの農業支援などの活動をしています。

現在、神奈川県在住です。いっしょに参加した、奥さんのドミン キューさんと伝統的な民族衣装のすてきな長女のハン ニトンさんを紹介してくださいました。



キョーミンさん

ミャンマーのお菓子とお茶を楽しむ

ミャンマーの歴史と政治について、60 年に亘るイギリスの植民地時代、それから、日本の支配下時代に対して、農民や学生の反対運動のための AFPFL (Anti-Fascist People's Freedom League) 組織の結成後、1947 年 7 月 19 日にアウンサン総裁が暗殺されました。翌年 1948 年 1 月 4 日にビルマ連邦として独立が成立しましたが、一部の民族反乱が続いて、軍人と少数民族間の内戦状態は現在まで至っています。1988 年、全国民の民主化デモが発生し、26 年間続いた社会主義政権が崩壊しました。

1990 年に実施された総選挙で、アウン サン スーチーさんが率いる国民民主連盟 (NLD: National league for Democracy) が勝利しましたが、当時の軍事政権からの明け渡しがなかったため、新政権を作ることができませんでした。1992 年～2005 年軍事政権は ODA などの海外からの援助がなく、結局、国の資源を売り続けてきたが財政悪化に陥り、だんだん弱体化してきました。2005 年からは経済開放、外貨投資の受け入れ拡大など政策変更により経済が好循環し、政府が東南アジア諸国連合の議長を務め、ミャンマーは民主化路線のスタート時点に立っています。

年間行事のダジャン、ダディンジュや観光地など、また、ミャンマーの農民が八王子の磯沼ミルクファームや農家を見学したことを映像で紹介しました。

休憩時間はミャンマーのお菓子とお茶をいただきながら交流を楽しみました。

Q&A では、お墓についての質問がありました。パゴダはたくさん建てられています。個人の墓を作る考えはなく、ミャンマーの宗教観には「死ぬと、魂が違う世界に行って、体は物質としてとらえる」そのため火葬が一般的で、地方では土葬が多いです。国の代表とか、尊敬されている人はお墓を作って後世に伝えることはあります。また、「ファミリーネームがないが家系意識について」との質問に「家系意識は強くないが、個人番号で一人ひとりが特定されていて、一般的に戸籍証明書は広く使われています。」と答えました。



ハンニトンさん

長女のハンニトンさんが飛び入りでスピーチした中で、12 年前、12 歳の時、先に来日していた父に呼び寄せられ、母と妹と一緒に来日し、当時から無償で日本語を教えてくださいました。日本のボランティアの方たちにお礼が言いたいと話しました。

また、ハンニトンさんは幼いころ 4～5 回マラリヤにかかり、元気になるのは比較的裕福だったため、入院させてもらったからとも話し、ミャンマーでは経済的な面と医療の格差で助からない人もいるため、自分の力でその格差を何とかしたいという思いがあるそうです。放射線検査技師の国家試験に合格して大学病院に勤務でき、日本の先端医療と技術を学んで、いつかミャンマーに持ち帰って、技術者だけでなく、ミャンマーの人たちの教育もやっていきたいために頑張っているとも語りました。

「日本の価値観がすごいのは自分自身で切り開いてやっているところです。ミャンマーが海外から援助を受けることで、国のカラーが失われることに不安があります。ミャンマーにしかできないことをもっと出した方がよいと思います。」と話し、ハンニトンさん自身のアイデンティティについて、「価値観、考え方は日本の影響が強いこともあり、いつも迷ったりして、答えはでないかもしれないが、きっと日本半分、ミャンマー半分だと思う」そうです。「夢は何語で見ますか？」の質問に、就職の面接試験でも同様の質問があり、「日本語で見ます」と答えたそうです。

親子二世代のお話は大変好評でした。

アンケートには「キョーミンさんは大変しっかりした話をされ信念を持って活動されているのに敬意を表します。お嬢さんの素晴らしいスピーチに感激しました。」とありました。

※次回：平成 27 年 2 月 1 日(日)「アゼルバイジャンの話」です。お誘い合わせの上、ぜひご参加ください。

世界の人とふれあいタイム委員長 生山 龍哉